

前立腺癌 慢性関節リウマチ合併 当院治療 11 ヶ月目で中止

元大手銀行の役員で、数十組以上の仲人をされ、平成 18 年のお正月には 100 人のお孫さんが出来たと顔をほころばせていた 82 歳の男性は、平成 17 年 5 月に当院の患者様説明会に参加され、そのまま初診とられました。

平成 17 年 4 月に、都内の総合病院で生検組織検査し、前立腺癌（中分化型腺癌）と診断されており、総合病院の主治医からは骨転移の可能性もあると言われて、かなり落ち込んでおられました。新免疫療法(NITC)では、前立腺癌のみでなく、もし骨病変があっても、Th1 サイトカインが出ていれば良好な経過をとることもできる可能性を説明しました。

初診時の腫瘍マーカーでは、前立腺癌マーカーの PSA は 63 ng/ml（基準値 4.0 ng/ml 以下）、溶骨性骨転移のマーカーである I CTP は 2.6 ng/ml（基準値 4.5 ng/ml 未満）で、また、造骨性骨転移マーカーである骨型 ALP は 13.6 U/ml（基準値：男性 29.5 U/ml 以下、女性 28.3 U/ml 以下）でした。この 2 つの骨マーカーがいずれも基準値内であったので、骨転移の可能性は低いと説明しました。尚、後日の骨シンチで骨転移は否定されています。

この時の免疫力をみますと、IFN γ が 8.5 IU/ml と低めですが、IL-12 は 10.3 pg/ml と高く、前立腺癌の攻撃に力を発揮する NK 細胞比率 17.7%（11.0%以上が活性化）と活性化 NK 細胞比率は 16.6%（10%以上が活性化）のいずれもが高値を示していましたので、強い免疫力を持っていると説明しました。

開始後 4 日目からホルモン療法のプロステール 1 錠/日が併用され、2 週間目の血液検査では、PSA は 63 ng/ml から 37 ng/ml へと低下しました。1 ヶ月目の 6 月中旬より、カゾディクスを 1 日 1 錠、ゾラディクスを月に 1 回が開始されています。4 ヶ月目の 9 月には、PSA は 3.3 ng/ml へと低下し基準値範囲内に入り、その後も維持されています。

また、エコーによる画像診断では、治療開始後 1 ヶ月目の 6 月に 2.3 cm \times 1.3 cm \times 1.8 cm 大の腫瘍は、3 ヶ月目の 8 月のエコーでは消失しました。10 ヶ月後の平成 18 年 3 月のエコーでも消失したままです。

この患者様は、慢性関節リウマチを併発しており（リウマチ反応も陽性です）、あまり免疫能力を上昇できません。すなわち、Th1 サイトカインの IFN γ や IL-12 を亢進させすぎると、朝の手足関節のコワバリや関節の腫脹を起こすことが分かっています。こういう場合は、IL-X、クレスチンおよび IL-Y の投与量を減らさなければなりません。

この患者様の場合は、治療開始から 5 か月後に、クレスチン 3 包/隔日を 1 包/日へ、IL-Y は 12 カプセル/日から 8 カプセル/日へ、IL-X は 6 g/日から 4 g/日、サメ軟骨は 10g/日から 5g/日へ減らしました。

そして、治療開始から 10 か月後(平成 18 年 3 月)より、エコー検査で腫瘍消失が維持されていることが確認されたので、サメ軟骨、クレスチンはそのまま、ILY を 4 カプセル/日、ILX を 2g/日に減量し、免疫賦活剤 SPG の筋肉注射及び OK432 の経口投与を中止しました。

翌月、上記の処方でもリウマチの症状が出てくるとのことで、患者様の判断で ILY を 2 カプセル/日、クレスチンを 1/2 包/日に減量しているとの報告を受けました。

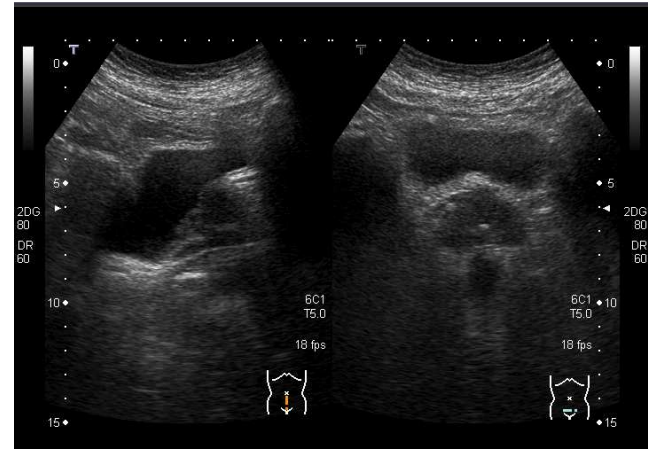
そして、患者様のご希望で、平成 18 年 4 月中旬から新免疫療法(NITC)を一時中止し、リウマチの治療に専念することになりました。

自己免疫疾患を持っている患者様では、本来 Th1 サイトカインの産生能力は遺伝レベルで亢進しているため癌の治療にとっては有効なのですが、自己免疫疾患を併発させてしまいますので、免疫、特に Th1 サイトカインを高からず低からずコントロールしながら治療することが大切となります。



新免疫療法(NITC)治療開始から 1 ヶ月後(2.3cm \times 1.3cm \times 1.8cm)

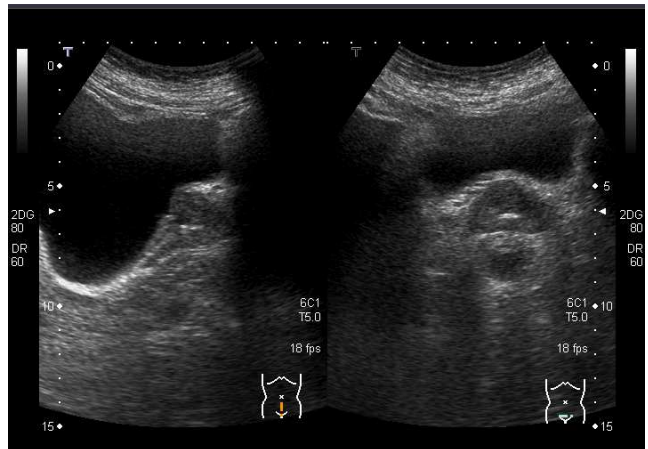
※前立腺は左右非対称を呈し、右後方に増殖しており、2.3cm \times 1.3cm \times 1.8cm 大の腫瘍を指摘できる。(平成 17 年 6 月)



3 ヶ月後(腫瘍消失)

(平成 17 年 8 月)

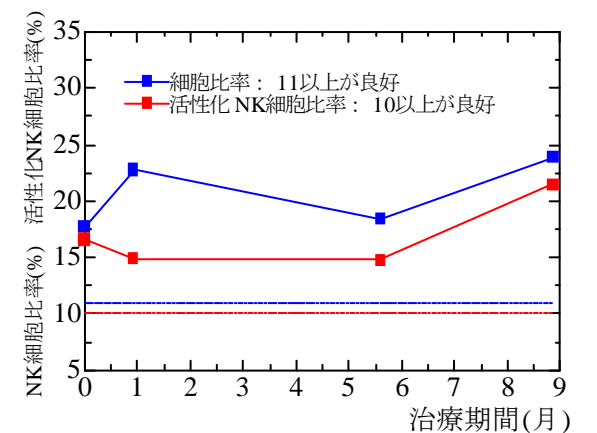
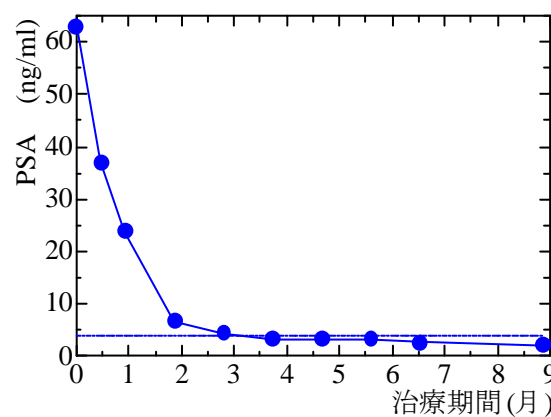
※前立腺は左右対称を呈し内部に腫瘍を指摘できなくなっている。



10 ヶ月後(腫瘍消失)

(平成 18 年 3 月)

※前立腺は左右対称を呈し内部に腫瘍を指摘できなくなっている。



オリエント三鷹クリニック

<http://www.orient-ct.ne.jp/>